

若年層における現在志向を通じた意識の屈折

大阪大学大学院／日本学術振興会 狭間諒多朗

1 目的

無業者や非正規雇用者、未婚者の増加など、現在の若年層は「社会的弱者」といわれている(宮本 2002)。若年層が困難な状況に置かれているのは、社会構造の問題であるという認識が広まっているが、若年層に対する社会保障は手薄である(宮本 2012)。このような状況にありながら、若年層による異議申し立てがあまりみられず、若年層はおとなしいということが指摘されている(中西 2009)。本報告では、「将来よりも現在」を重視するという現在志向を鍵に、若年層のおとなしさについて明らかにしていく。

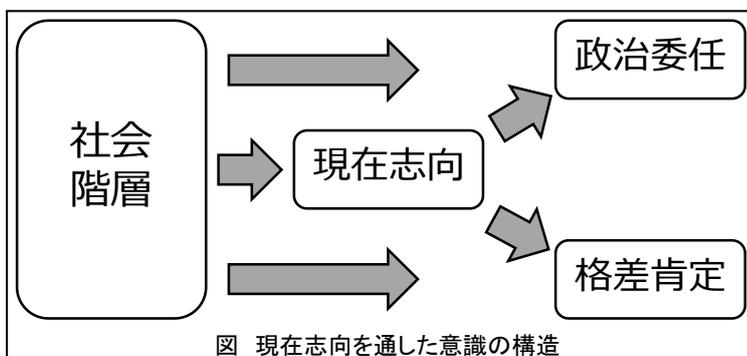
2 方法

使用するデータは SSP2015 調査データである。おとなしさに関連する変数として「政治のことはやりたい人にまかせておけばよい」という政治委任意識と「今後、日本で格差が広がってもかまわない」という格差肯定意識を用いて、若年層を対象に分析を行った。

3 結果・議論

分析の結果、学歴の低い若年層の現在志向が強く、現在志向が強いことが政治委任意識と格差肯定意識を強めるという結果が得られた。

困難な状況にある低階層の若年層にダメージが集中しているという指摘があるが(宮本 2012)、ダメージを受けている低階層の若年層の現在志向が強く、現在志向が強いことが「政治のことはやりたい人任せ、格差は広がってもよい」という、なげやりの意識とつながっていることが明らかとなっ



た。声をあげるべきだと考えられている低階層の若年層の意識が、現在志向を通して屈折し、なげやりの意識につながっている(図)。このことが「若年層はおとなしい」という認識を人々にもたらしていると考えられる。

詳細な分析結果、および詳細な議論については、当日の報告において提示する。

文献

宮本みち子, 2002, 『若者が《社会的弱者》に転落する』洋泉社.

———, 2012, 『若者が無縁化する——仕事・福祉・コミュニティでつなぐ』筑摩書房.

中西新太郎, 2009, 「漂流者から航海者へ——ノンエリート青年の〈労働—生活〉経験を読み直す」

中西新太郎・高山智樹編『ノンエリート青年の社会空間——働くこと、生きること、「大人になる」ということ』大月書店, 1-45.

【付記】

本研究は JSPS 科研費 16H02045 の助成を受けて、SSP プロジェクト (<http://ssp.hus.osaka-u.ac.jp>) の一環として行われたものである。また、この研究は、JSPS 科研費 14J00460 の助成を受けたものである。なお、SSP2015 データの使用にあたっては SSP プロジェクトの許可を得た。